

知事との県民対話集会（高山村）概要

- ・開催日時 令和5年2月6日（月） 午後5時30分から午後7時まで
- ・会場 高山村保健福祉総合センター ふれあいホール
- ・参加者 県民43名、内山高山村長、阿部知事、中坪長野地域振興局長 他
- ・テーマ 山林の維持管理及び木材の活用について

・主な発言（要旨）

【参加者】

・森林組合で山林を管理している。毎年、補助金を活用して間伐を行っており、伐採木は搬出して建築材などに活用している。今後皆伐を検討しているが、採算がとれるかが不安である。

【参加者】

・木材の利活用について、高山村が一番遅れているように感じている。村内には地域材の加工場がない。村で力を入れて育成をしてほしい。
・村には有名な五大桜があるが、それ以外にも、観光コースなどを設定し、人が集まる土地にしてほしい。りんごやワインなどを販売する施設も検討していただきたい。

【知事】

・県では森林づくり県民税を皆さんからいただき、防災のための間伐、里山整備、信州やまほいくのフィールド整備などに使っている。来年度からは間伐から主伐・再造林へシフトしていく。
・間伐から主伐へは県が責任を持って転換していく。その際の課題解決にも県がしっかりサポートしたい。ただし、地域でできることは地域で取り組んでもらえると県全体でもっと森林資源を有効活用できる。
・先人が苦労して植えた木をもっと有効に使わない手はない。木を切って若い木を植えれば、老齢の木よりは二酸化炭素を吸収してくれる。プラスの循環をどうつくるかということも県も考えているが、地域でも考えてもらいたいと思う。村だけではできないということは県がしっかり協力していかなければいけないと考えている。
・高山村は、りんご、ぶどう、ワイン、温泉資源にも恵まれている。森林も今はなかなか活用されていないが、海外から安いものを買って何とかなる時代ではなくなってきている。今ある資源をどう活用するか考えなければならない。

【参加者】

・県の減災防災里山整備事業を活用し列状間伐を実施したが、2年間で事業中止となった。平成25年度から5年間の森林経営計画を策定し、森林作業道の開設や搬出間伐を実施したが、4年目で事業が中断された。林務には様々な補助金はあるが、込み入っていて分かりにくい印象がある。区や住民の負担が少ない形で森林整備が進められるようにしてほしい。

【三石林務課長】

・計画が中断した理由は、補助金が上限に達してしまったからと考えられる。

【知事】

・こういう補助をしてほしいということなどがあれば、地域振興局に相談していただきたい。

【知事】

・エネルギーとして薪ストーブやペレットストーブを利用してほしいが、使わない理由は何か。

【参加者】

・費用が高いイメージがある。

【知事】

・一部を共有林とし、地域で分担して材料を確保できたら薪ストーブの導入を進めるなど、地域でできることは考える余地はあるのではないか。

【参加者】

- ・スギやカラマツが大きくなり伐採に適したものになっている。県で植樹から伐採、活用までのシステムづくりをお願いしたい。伐採後は、落葉樹を植えることで、動物と共生できる森林を整備ができないか。
- ・山の中に倒木があり、自然災害時に川をせき止めたりして大災害になる可能性があるため、その対策も考えてほしい。

【知事】

- ・木を植えると保水能力が高まり、また、木が根を張ることで災害に強い森づくりができる。災害防止の観点からも、我々もしっかり考えていかなければならない。

【参加者】

- ・4年前から、区民にバイオマス発電ができないか相談している。材積から見て4億円ほどの価値。これを活用できれば補助金を利用しないでお金を生むことができるので、バイオマス発電や小水力発電などができればいいと思う。
- ・木曾の林業大学校には1ターンの生徒は多いのか。
- ・県企業局の水素ステーション設置や他県で企業の温泉地熱を利用した水素プラント設置もある。長野県にも温泉の熱源があると思うので、モデル事業をつくってもらえないか。

【知事】

- ・私も補助金依存はやめた方がいいと思っている。そうした産業は衰退していく。林業や農業は生産者側が主となっていたがそれだけでは回らない。流通や消費まで含めてしっかりした体系をつくる必要がある。国際的には需要があり木材価格が上がってくるので、お金が回ることによって補助金に頼らないといったこともできるのではないか。
- ・林業大学校には、県外からも何名か来ている。全国から集まる拠点となるようにしたい。木曾地域、伊那谷を含めて上松技専や信大農学部もあり、森林・林業の拠点としたいと思っている。
- ・水素エネルギーは今後重要になると思うが、輸送コストなど余計なエネルギーを使わなくてすむという観点では、地域の温泉熱やバイオマスなどを地域で有効活用することが大切だと考えている。

【知事】

- ・どうすれば、若者や女性が希望を持てる県になるのか。

【参加者】

- ・令和4年9月に無認可保育園を設立した。子どもたちは、自然の中で遊べば、心も体も感性も育つ。開園してから5カ月だが、子どもたちの成長を感じる。
- ・長野県は小中校生の不登校が全国でワースト2位である。これは大変なことで教育改革が必要。子どもたちを信じていないことが原因ではないか。子どもたちがお互いが認め合って、育ち合える居場所をつくるのが大切だと思う。

【知事】

- ・私もまったく同意見である。大人は子どもを子ども扱いしすぎている。どうして子どもの声を聴いて学校づくりができないのかと思う。
- ・長野県は学びの選択肢が少ない。来年度は、フリースクールの認定制度をつくれぬか検討したいと考えている。今の教育をどうするのが最も重要な問題だと思う。一緒に考えて、変えていきたい。

【参加者】

- ・県の特別指定希少野生動物に指定されたイヌワシは森林生態系の頂点にいるが、森林が過密状態となり、狩りをする場所がなくなってきている。餌がなく繁殖ができない状況で生態系に影響がある。森林の維持管理はイヌワシの保護回復につながるので、対応をしてほしい。

【知事】

- ・林務部と環境部自然保護課と相談する。イヌワシ保護の森林整備に関しては、問題意識を持って対応したい。

【参加者】

・子育てや教育に関し、周りがやっていないから高山村もやらないのではなく、「困っている人がいるならやってみよう」と考えるような村であってほしい。

【知事】

・長野県も周りのことを気にしないで教育をやっていきたいと思っている。学校や教育委員会、県、文部科学省など、誰に話をしたらいいのか、誰が決めているのかと最も問題意識が出てくるのが教育だと思う。

・知事は教育に口出しができない。一番力を持っているのは、地域の人たちや保護者、学校現場の人々だと思う。その人たちが本当に教育を変えていけるようなバックアップ体制をつくらないといけない。

【参加者】

・県下の高校で造園関係の業界に就職する生徒がほとんどいない。待遇を改善しないと就職してもらえない。中小企業の賃金を底上げできるような仕組みをつくってほしい。

【知事】

・いろいろな物の価格が上がっている中で、経済界と価格転嫁と賃上げの共同宣言をした。若い人たちが希望を持てる社会をつくらないといけない。

・安いものだけを追求するだけではなく、適正価格で売り買いすることも大切である。オーストラリアでは、ファーストフード店で働いても時給30~40ドルもらえる。優秀な人材が海外に流出してしまうので、早急の対策が必要である。

・生産性が上がる支援としてデジタル化を進め、価格高騰対策として省エネ設備への転換支援をするなど社会の仕組みを変える必要がある。私だけでは変えられない。経営者や流通関係にも協力いただきたい。